



写真7 ミカンキイロアザミウマ雌成虫



写真8 新芽への加害症状

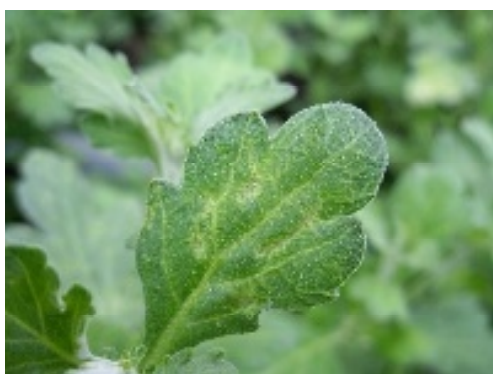


写真9 葉への加害症状



写真10 花への加害症状

## 防除対策

媒介虫であるミカンキイロアザミウマの防除とウイルスの伝染源となる感染株の除去、さらにキクのような挿し穂で増殖する場合は、健全な親株から採穂し、ほ場にはウイルスに感染したキクを持ち込まないことが重要なポイントになります。

### [ 1 ] 無病親株の確保・更新

ウイルスに感染した挿し穂の利用がまん延の一因となるため、キク茎えそウイルスに感染していない健全な親株を確保する。また、親株床でのミカンキイロアザミウマ防除を徹底する。

本ほ場で多発した場合は、親株の感染が疑われるため、早急に健全な親株に更新する。また、更新した親株への再感染を防ぐため、育苗専用ハウスを設けて隔離栽培を行う。発生地域からの挿し穂等の移動は行わない。

### [ 2 ] 発病株の早期処分

発病株をほ場内に放置することは、ミカンキイロアザミウマがウイルスを獲得して、周囲にウイルスを伝搬することになるため、速やかに抜き取り、土中に埋めるなどの処分を行う。

### [ 3 ] ミカンキイロアザミウマの防除

#### ( 1 ) 耕種的防除

##### 被覆資材の利用

施設の外張に近紫外線除去フィルムを使用する。また、開口部に白色または銀色の防虫ネット（1mm目合以下）を張り施設内への侵入を防ぐ。

##### 残花の処分

花粉を餌とすることで急激に増殖するため、採花後の残花はほ場内に残さないように早めに摘み取り処分する。

##### ほ場周辺の環境改善

ほ場周辺の雑草はミカンキイロアザミウマの発生源となるため、除草を徹底する。また、花き類や野菜類を植えないようにする。